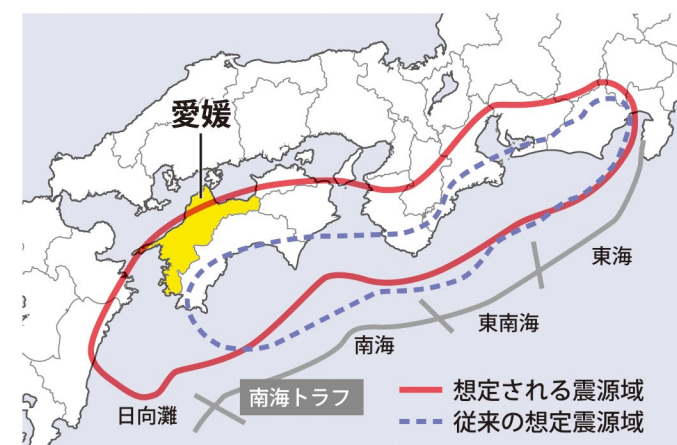


# 新居浜市で想定される巨大災害

愛媛県に最大の被害をもたらす災害は「南海トラフ巨大地震」です。南海トラフ巨大地震とは、最新の科学的知見に基づき想定した、紀伊半島沖から遠州灘にかけての海域（通称南海トラフ）で周期的に発生する、海溝型の巨大地震のことです。過去には、いずれも東南海地震と同時、または東南海地震の2年以内に発生しており、最近のものとしては1946年に発生、歴史的にみても概ね100年～150年間隔で繰り返しおこっています。前回から70年以上経過した現在、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高

## 【南海トラフ巨大地震】



まってきており、今後30年間の発生確率は70～80%といわれています。発生すれば愛媛県ではほとんどの地域で震度6弱以上、最大で7となり、津波は宇和海沿岸で9m以上、瀬戸内海沿岸でも3m以上が予想され、東日本大震災を上回るような甚大な被害が見込まれています。

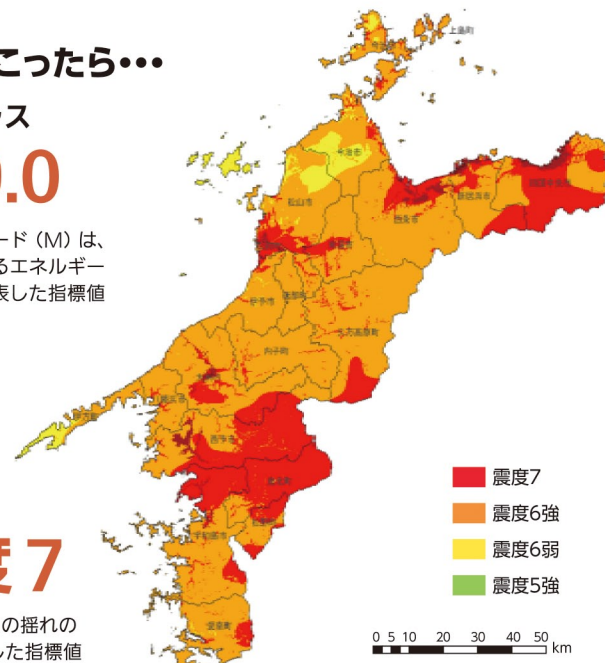
## もしおこったら…

最大クラス  
**M9.0**

マグニチュード(M)は、地震が発するエネルギーの大きさを表した指標値

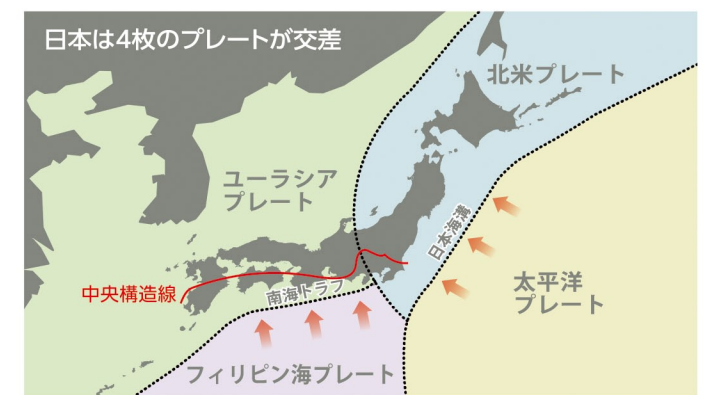
最大  
**震度7**

震度は、地面の揺れの大きさを表した指標値



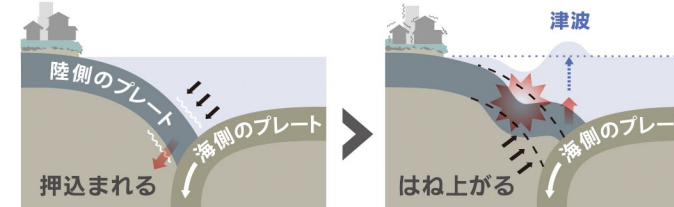
## 地震大国日本：海溝型と内陸直下型、2種類の地震

日本列島は、4つのプレートが周囲を取り囲む地震密集地です。特に阪神・淡路大震災(1995)以降は「地震の活動期」に入っており、以降多くの地震災害が発生しています。2018年から30年以内に高確率で発生が予想されている南海トラフ巨大地震(海溝型)とその活動の前後で起こる活断層地震(内陸直下型)への注意と備えが大変重要です。新居浜市には、九州の八代から、新居浜市、伊勢を経て諏訪の南を通り、群馬県の下仁田、埼玉県の寄居付近でも確認された、連続して陸地を1000km以上追跡できる世界第一級の大断層である中央構造線も存在します。



## 海溝(プレート境界)型地震

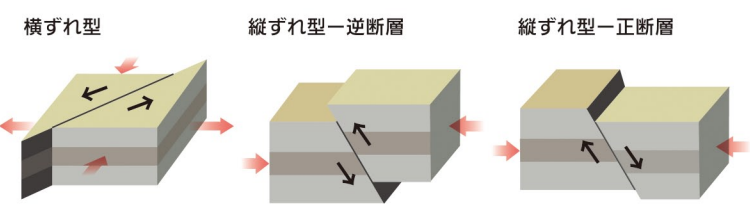
関東大震災、十勝沖地震、三陸沖地震など



海側プレートが陸側プレートの下に潜り込むことで、境界にひずみエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートがもとに戻る力ではね上がり、地震が起こります。(押込まれるときにも内陸側で地震が起こります)

## 内陸直下型地震

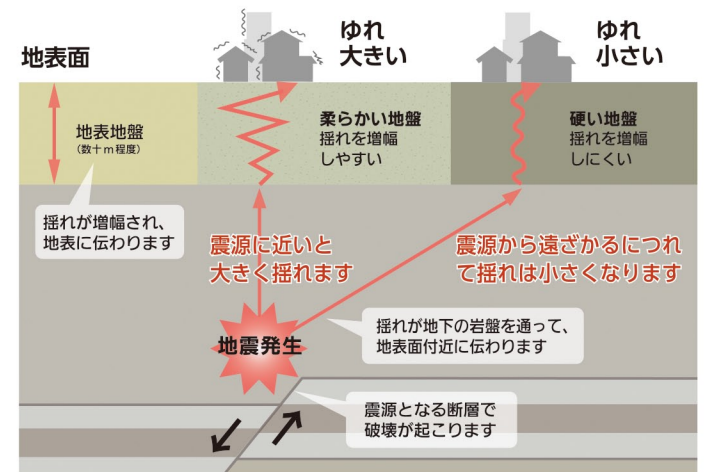
阪神・淡路大震災、新潟中越沖地震、芸予地震など



地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、内部にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときに、ある面(活断層面)を境にずれ動き、直下で地震が起こります。海溝に沈むプレート内でも同じ現象が起こります。

## 【マグニチュードと震度について】

地震を表わす「マグニチュード(M)」は、「地震エネルギーの大きさ(規模)」を、「震度」は「地面のゆれの強さ」を示します。「マグニチュード=エネルギー」が大きくても、震源が遠い、深い場合は「震度=ゆれの強さ」が小さくなります、逆に「マグニチュード」が小さくても、震源が近い、浅い場合は「震度」が大きくなります。



## 新居浜市の被害想定(愛媛県地震被害想定調査 H25.12)

人的被害(死者:冬深夜)

**1,841人**

建物被害 全壊(冬18時)

**35,169棟**

避難者数(1ヶ月後:冬18時)

**81,348人**

最高津波水位

**3.4 m**

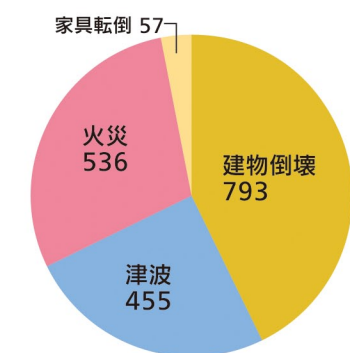
到達時間(基準場所:新居浜港)  
20cm 11分 / 1m 3時間55分  
3.4m 6時間45分

**3時間 55分**

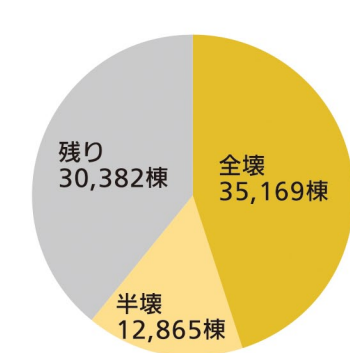
浸水面積(1cm以上)

**955 ha**

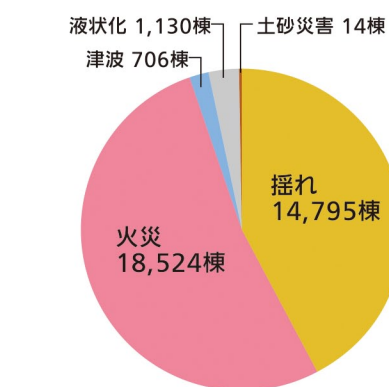
原因別死者数(新居浜市全体 1,841人)



建物被害(全棟数 78,416棟)  
全半壊 48,034棟

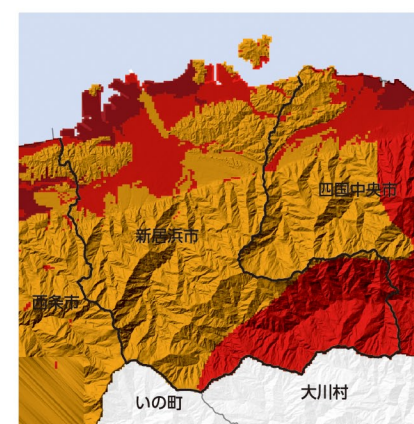


原因別全壊棟数(35,169棟)

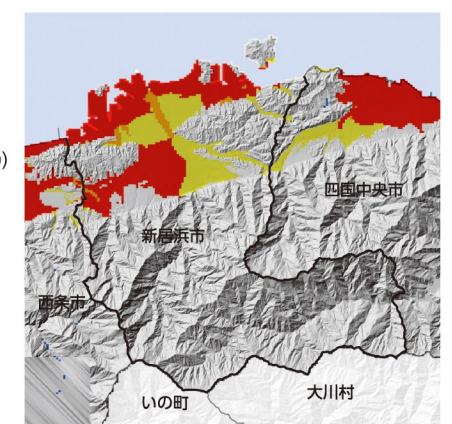


## 【新居浜市 地震リスクマップ】(南海トラフ地震想定)

### ゆれ(震度分布)



### 液状化危険度



出典:愛媛県地震被害想定調査結果(第一次報告)  
南海トラフ巨大地震の震度分布(5ケースの重ね合わせ) / 南海トラフ巨大地震の液状化危険度(PL値)分布(5ケースの重ね合わせ)